

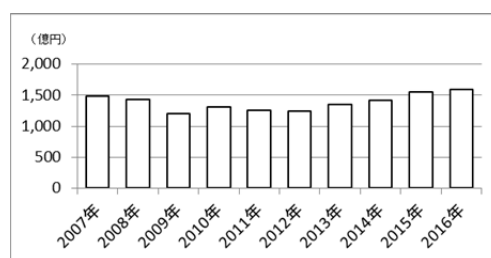
## 進化を続ける筆記具！

～デジタル時代にアナログな筆記具の世界～

ゼブラ株式会社 櫻井 直樹

(1997年3月 東邦大学理学部化学科卒)

少子化による就学人口の減少やオフィスのペーパーレス化、OA化が進み、業界内でも筆記具の衰退が危惧されて久しく経ちます。特に最近では、IoTやAIなどのデジタル技術が目覚ましい進化を続けており、アナログの代名詞ともいえる手書きの衰退が更に懸念されています。国内市場は、リーマンショックの影響で大きな落ち込みに見舞われましたが、最近ではリーマンショック前の水準を上回るまでに市場規模が回復し、順調に成長を続けています。リーマンショック前までは筆記具は会社から支給されるケースが多くみられましたが、経費節減の影響で支給が打ち切れ、個人で購入するものになってきました。自分のお金で購入するため、デザインや書き味などにこだわった筆記具を選択される方が増えています。



国内筆記具市場規模

出典) 経済産業省生産動態統計年報 繊維・生活用品統計

日本の消費者は、用途による筆記具の使い分けや要求品質の高さから世界で一番競争が厳しい市場と言われています。品質へのこだわり、新しい技術の探求、より便利な・快適な製品を開発しようとする各社の技術競争が日本の筆記具を支えています。近年では、世界の追随を許さない品質と日本でしか実現できない精密加工を施した【JAPAN QUALITY】の書きやすい筆記具として世界中に輸出されています。本講演では、筆記具の進化の歩みを振り返りながら、滑らかボールペン『スラリ』、芯が折れないシャープペン『デルガード』、左利きの方にも最適な超速乾ゲルインクボールペン『サラサドライ』など最近の筆記具の世界を技術的な側面からご紹介させていただきます。

### ◎芯が折れない、詰まらないシャープペン

#### 『デルガード』



### ◎サラサの速乾版 『サラサドライ』

#### ■ 筆記線の比較

<従来品> <ドライジェルインク>

縞馬 縞馬

